

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900056		
法人名	一般社団法人いがしま		
事業所名	グループホームいがしま		
所在地	沖縄県名護市字久志192番地		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=4790900056-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 8月 28日(火)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いを大事にしながら、その人らしく生活していただけるよう、日課を決めず、ある程度、自分の意志で生活できるよう個別支援に力を入れています。久志区が母体という事もあり、久志区との連携に力を入れて、近隣住民との繋がりを大事にしています。利用者様各々、役割を持っていただき生活にメリハリが出るように支援しています。喧嘩をする事もありますが、楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当介護事業所は地域の有識者の提案を受け、区代表者等が検討を重ね一般社団法人「いがしま」を設立し市介護基盤緊急整備等特別対策補助事業を活用して整備され事業を開始している。施設運営・防災対策・区行事参加など日常的に地域と連携しているため馴染みの関係が維持されている。日頃から近所の散歩やコンビニまでも遠いため、ドライブがてらの買い物など気軽に外出している。職員全員が介護理念に沿った支援を心掛けており、利用者がやりたいことを邪魔せず、まずは見守り、その後手を差し伸べ、利用者が訴えてくるのを待ち、本人の意思を尊重している。利用者のケアプランのニーズも利用者に沿って作成され、日々の経過記録用紙の右端に「短期目標と支援項目をプリント」し、職員の共通認識を促し支援内容と記録が反映できるような工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、それに基づいて意識し業務に取り組んでいる。ホールに掲示し朝の申し送り時に読み上げている。話し合う機会を多く設け実践につなげる様、努力していきたい。	理念は、利用者が「住み慣れた地域で住民との触れ合いを大切に、日々の生活が自分らしく生き自尊心をともに大切にしたい。安心して暮らせる」を主軸に、新たに職員も理解しやすい言葉で作成した。施設内に掲示し朝の申し送りで唱和し、日々理念に沿った支援が継続しているかを意識確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区ののボランティアを積極的に受け入れて区の行事にも積極的に参加している。また定期的に近隣の農家の方が野菜を届けてくれるのも多い。	区主催の、ゆくい祭・新1年制合同祭・豊年祭・盆踊り・村芝居・敬老会・新生児祝い・新年会・川ウガミ祈願祭等多数あり、参加利用者の見守りを婦人会のボランティアに依頼するなど積極的に参加している。事業所内行事では誕生会や節分祭等、家族や友人知人の訪問がある。又、中学生の職場体験学習の受け入れや地域住民対象に救命講習を実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長や民生委員から、地域で認知症により困っている方の話があった際には、相談窓口になることを申し出ている。また、民生委員の集まりに参加し事業所のパンフレットを配布し、相談が受けられる様に図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、開催無し。今後改善できるよう努力していく。	運営推進会議は2か月に1回利用者家族・区長・民生委員・役場担当者・施設長・管理者が参加し、利用者は全員が順番に参加している。ヒヤリハットや施設行事、日頃の外出の様子などを報告している。又、入居者のお孫さんの1歳のお祝いをホームで行い「タンカーユーエー」の様子を家族代表の息子さんにiPadを提供して頂き観賞した。職員の欠員があり全職員が毎日1時間の残業を余儀なくされている事も相談している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話などで相談。または、直接、行政に出向き近況報告などを行う。協力関係は築けていると思う。	介護従事者補充に関して行政より「市役所の掲示板にも求人情報載せたり、介護職員欠員にもなう事業所更新手続きを行った。また管理者リーダー研修や制度改正等の研修案内がある。利用者の更新手続き等の相談に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内研修で学び、身体拘束をしないケアを行っている。夜間以外は施錠せず、行動を制限することなく安全に過ごしていただけるよう配慮している。身体拘束委員会において話し合い利用者の身体拘束にならないケアに取り組んでいます。	拘束をしない事は「利用者の人権を守るケアである」を身体拘束委員会で話し合い、身体拘束は基より帰宅要求や散歩には付き添いや見守りをし、やりたい事をやりたい時に出来るよう支援している。居室や玄関口も日中は施錠せず開放し、利用者が自由に庭を散歩したり飼い犬と遊んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見過ごされている事はないと思われるが、もう少し高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けていきたい。	利用者の行動や表現を規制することなく、「利用者が利用者らしく楽しく穏やかに生きられる」よう見守り寄り添う支援を提供することを事業所の理念に掲げて、日々振り帰っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	行政の担当や社協の職員と連携を密に取っている。以前は、権利擁護を利用している方も居られたが現在は制度の利用は無し。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書・口頭で説明し、家族の方の了承を得ています。契約時には、本人・家族の不安・要望を聞いています。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等、相談は面会時に意見を聞いています。実際には運営に関する意見はあまり聞かれず、気軽に意見を言える関係性を形成していきたい。	利用者が何時どこで何をしたいのか、したくないのかを言葉や行動・仕草や表情で確認し、散歩やドライブ・買い物・A&W等の外食・区の行事に同行している。日々の献立作成にも三枚肉やテレビの要望にも対応している。家族は利用者が元気で「その人らしく」日々暮らしていくことを望んでおり、家族と衣類や日用品の購入等気軽に楽しんでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から直接意見や要望を出してもらい、業務改善に取り組んでいる。また、普段の会話や申し送りノートの活用で意見を出しあい、試みて検討していくようにしている。	台風時の停電が長期間に及ぶことがある為ソーラーの導入や車いす対応車の購入を検討したが現時点ではなかなか進展できない現状である。介護職員の欠員が3名あり、職員全員で毎日1時間の残業でカバーしている現状と欠員による入居者の受け入れができない状況を改善したいと考えている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状として体制に無理が生じており、職員には厳しい労働環境であると思われる。早急に労働環境の改善に努めていきたい。	介護職員の3名欠員があり、毎日1時間の残業の継続を余儀ない現状と入居希望者の受け入れが困難な状況ある。退職者の退職理由を掘り下げ、職員個々の努力と善意だけでは長期の運営に支障をきたした新たな退職者が発生しないよう努力検討している。	区代表者等が一般社団法人「いがしま」を設立し市介護基盤緊急整備等特別対策補助事業を活用して事業を開始した経緯がある。設立した当初の目標目的に立ち返り、区民や職員が安心して「入居と就労を継続できる」給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう魅力的な職場環境・条件の整備を期待する。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会の立ち上げ、社内外の研修を取り入れ職員一人ひとりが意識してケアの実践ができるように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、各区の民生委員と交流する機会を作り、お互いで問題点を話し合いながらサービスの質の向上に繋がるように努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に向き合いながら常に傍に寄り添い、不安にさせない様声掛けし、話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族との思いの違い、家族同士の中での違いも含めて受け止め、サービスを受けるうえで不安を少しでも軽減できるよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族等の実情や要望をもとに事業所として出来る限りの対応に努めています。出来ることは速やかに実行しています。なるべく地域資源の活用も含めたサービスも提供していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様子を見ながら、家事作業や食事づくりなど提供し、本人の出来ること、できないことを見極め、役割を持って生活できるよう、支えあい暮らしていけるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月、新聞を送り家族に様子を伝えている。また、誕生会や行事などに参加を呼びかけ、本人を支え合っていく関係を作り努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や身内の方との関係性を継続できるよう、来訪や外出時の支援を行っている。また、昔の写真を見て語り合うなど支援を行っている。	地域の行事には、利用者の体調等みながら積極的に参加し、家族や友人知人との交流も継続し、通り掛かりで友人知人の面会もある。又地域の商店やキビやカボチャ畑・浜辺や拝み場所など馴染み深い人や場所への関係継続を支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の出来る役割をしてもらい、お互いを認め合えるような関係を築けるよう支援している。また、利用者ができない事も利用者双方で助け合う事もできている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めています。入院先、他施設を利用されてもされても電話などで近況を確認し、職員に報告している。その後の相談や支援に備え経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いを聞きのがさないよう心掛けている。本人からの聞き取りが困難な場合には、家族から伺ったりしている。	利用者の思いや意向は様々で「何でもやりたい・朝はコーヒーが飲みたい・パン屋さんのアンパンやハンバーガーを食べたい・志村ケンのTVを見たい・外出や散歩し季節の花を観賞したい・週1回外出や外泊したい・化粧品をつかいたい」などの要望があり個別支援や集団支援を織り交ぜながら対応している。主訴の表現が困難な利用者には表現や仕草等で思いや意向を把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、契約時に本人・家族から聞いています。利用者の方ができる限り社会性をもって生活できる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子から情報を得たり、管理者や家族と情報を交換して有する力の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から要望を聞き、介護計画を作成する。介護する側にとっての課題ではなく、本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、意見やアイデアを出し作成する	更新時に利用者家族・職員・介護支援専門員でサービス担当者会議を開催している。利用者の要望は「何でもしたい」「散歩を続けたい」とう具体的な内容がある。利用者の個人経過記録用紙の右端に個別の短期目標と「洗濯たみ・お盆拭き・志村ケンちゃんビデオ鑑賞」など具体的なケア項目を抜粋記載し、時間ごとの過ごしたかと支援内容を記録、ケアプランに沿った支援が提供されている。	毎月のモニタリングは日々直接支援を提供している職員が担当し、よりケアプランに沿った支援が提供されるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の特徴や変化をケース記録に記載しています。職員間で、よいケアにむけてそれらの情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の家族にて行ってもらっている。受診時に戸惑う事がないように事前に報告書にて医師や看護師に情報を提供している。数名、往診を受けられる方もいるが同様に報告書にて情報を提供している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事ごとに地域のボランティア・民生委員に協力していただいて日々の暮らしを楽しめるように支援しています。もう少し活用できる資源が無いか掘り下げて考えていきたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療による月2回の往診があり、受診が必要な場合は家族と連絡を取り、スムーズに受診できるよう支援体制を整えている。	入居前からのかかりつけ医を家族や利用者の希望により民生委員の対応で継続して受診している。受診時には事業所から医師に文書で情報提供し、受診後は文書や口頭で報告を受け、職員とも情報を共有している。訪問診療は月2回の往診を利用している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係医療機関の看護師に相談し、適切な受診や往診を受けられるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時安心して、治療が出来る様に、病院と情報交換し、相談に努める。症状の安定時、医師の指示で退院し、家族へ報告。退院後も安心して元の生活に戻れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応は、協力医療機関の医師・看護師・家族と相談している。管理者は常に意識し現状では、どこまでの支援ができるかの見極めを行っています。	看取りについて家族からの希望もあり、指針を決め明文化したいが、職員体制が整わず現在の状況では行えないため、指針をまとめるまでに至っていない。家族と協力医や看護師、職員との話し合い等は前向きに行い、協力体制は整っている。	人員体制を整え、看取りについても利用者や家族、職員の希望に沿えるような方針と明文化が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時についての研修等を行い対応している。協力医療機関の医師、看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。夜間の緊急時には医師が訪問できる協力体制を整えている。	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難を想定した避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練を職員が身につける必要がある。区の消防団に緊急時の協力をお願いしている。	避難訓練は年2回行われているが、夜間想定訓練は行われていない。新しく海拔21メートルの高台に「久志区区民交流館」という避難場所が作られ、車椅子と徒歩で避難を行った。その場所にも区民のための備蓄がされているが、事業所にも3日分の備蓄の準備が望まれる。	夜間想定避難訓練を地域の方の協力を得て行い、事業所にも備蓄を3日分準備しておきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの羞恥心や人格を大切にして、その時に応じた声かけができるように意識している	職員は利用者に声掛けする時、人格を大切することを心掛け支援している。居室のドアもガラス張り部分を目隠しし、プライバシーに配慮している。利用者がやりたいことを邪魔せず、まずは見守り、その後手を差し伸べたり、利用者が訴えてくるのを待って支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、日々の関わりの中で、本人の希望があればその思いを実現できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望や状態に合わせ、その人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の体制により希望に添えない事もあるが、外出時には洋服を一緒に選ぶなど、おしゃれができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が会話しながら一緒に食事をしている。食べたいものを聞いたり、外食では好きなものを選んでもらっている。また、食事の準備や後片付けなど、利用者ができることに参加していただいている。	食事は昼、夜は調理専門の職員が手作りし、朝は夜勤の職員が手作りしている。職員も一緒に同じ食事をとり会話も弾んでいる。介助の必要な利用者は1人でほとんどの方が、自分で食事をとっている。民生委員に低いテーブルを作ってもらい、自分で食事がとれる工夫をしている。食後のお膳ふきなど、自発的に利用者が行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事や水分量の状況を把握し、チェック表に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を行っている。また、口腔ケアの際には、口腔内の観察を行い異常はないかの確認をしている。問題があれば近隣の歯科医院に依頼して診てもらっている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながら行っている。本当に排泄用品が必要な状態なのかを話し合い、安易な使用には注意している	必要最小限のパットやリハビリパンツを使いながらも、ほとんどトイレで排泄を行っている。職員が排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛け、本人からの訴えでトイレで排泄できるよう支援室している。おかげで排泄については入居時の頃から機能を維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルト、オリゴ糖水などを提供している。又、園外への散歩やホール内での運動も多く取り入れている。下剤の調整も行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であるが、別の日に希望がある場合は対応できるようにしている。	入浴は週3回を基本としているが、希望があれば対応している。シャンプーや石鹸は利用者の好みのものを使用し、整容時も自分の乳液を使ったり、自ら選んだ服を着たり、ブラシを渡すとブラッシングを自分でやっている。浴槽もあるが、ほとんどの方がシャワー浴を好んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、日中でも居室で休んでいただいている。夜間は、室温・照明などで安眠できるよう配慮している。	/	
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人ファイルに綴り、薬の飲み方や、副作用等の症状の変化、各職員が理解しやすいよう努めている。変化がある場合には、関係医療機関の医師や看護師に相談している。	薬は鍵のかかるリネン庫で保管し、管理者が1週間分に分けたのち、その都度1日分にわけている。職員が薬を飲ませる場合もダブルチェックを行っている。薬を飲み込むところまで見守りを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士楽しんでできるよう橋渡しを行っている。好みや能力に応じた作業を提供し、感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。	/	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただける場所への外出や、日用品の買い物に出かけたり、区の行事などへ出かけたり気分転換を行っていただいている。また、	日常的に事業所周辺を散歩したり、牛乳を買いにコンビニや、食材を買いにスーパーまでドライブしながら出かけている。区の行事にも利用者の体調や気分を考慮し出来るだけ参加している。旧盆に自宅に帰る方や誕生日の個別外出、故郷訪問の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は主に代表者が行っているが、本人の希望に沿って買い物が行える様支援している。また、個別に自分の財布を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話が出来る様に支援している。手紙の支援は無し。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事を大切に考え、その都度飾り付け等を行い、季節感を感じて頂ける様配慮している。ホールでは適度な音量で音楽をかけリラックスしている。湿度や温度管理も行っている	広々としたリビングの大きな窓からは庭への出入りが自由にでき、事業所で飼っている犬の様子もうかがえる。腰の高さの畳間に腰かけたり、寝転んだり、ソファでうたたねするなど好きな場所で過ごしている。玄関にはベンチ椅子があり、出かけるために靴を履いたり、休んだりできる。季節感も大切にした飾りつけにも工夫がみられる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所や時間は居室での時間に限られる事が多いが、なるべく、そのような時間を作れるよう工夫している		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物があると安心できる事を家族へ伝えながら協力して頂いている。また、本人の居心地の良いように適宜職員と整理整頓を行っている。	居室にはベット、吊戸棚、クーラーが備え付けられている。テレビや寝具、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ちこんで、その人なりの居心地の良い空間を作っている。「志村けん」が大好きな利用者は居室に職員と一緒に作った志村けんの貼り絵や写真を飾り、いつも眺め、コントのDVDを見ても笑いが絶えない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてながら、自室の家具の配置や生活動線の確保に努めている。また、利用者が環境の変化から混乱しないように配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在、運営推進会議の開催ができていない。	事業所の体制を整え確実に開催していく	介護従事者の補充。補充が無い場合でも、時間調整を行い確実に開催していく。	3ヶ月
2	1	理念の共有を事業所だけで行っている	ご家族にも配布し共有していく	新聞やパンフレットにも載せる。または、理念だけでも配布して共有していく	6ヶ月
3	35	災害対策において地域との協力体制が弱いと思われる。	区の消防団、青年会や婦人会などにグループホームの災害対策を知っていただき協力体制を築きあげる	青年会や婦人会との交流機会を確保し理解していただく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。